



講義に熱心に耳を傾ける生徒たち

海洋保全の大切を訴え

東北大・片山教授
光星高で講義

仙台市の東北活性化系、技術系分野の生徒研究センターがこのほど、八戸市の光星学院高校(法官新一校長)で、「海を守り、海から恵みを得るとはどういうことか」をテーマに講座を開催し、特別進学コースの2、3年生約60人が耳を傾けた。同センターの人材育成事業の一環で、理科

系、技術系分野の生徒に進路を考えてもらおうと、東北大の協力で、教授らを東北各県の高校に派遣している。講師を務めた同大学院農学研究科の片山知史教授が「海を守るためには、生物のすみ場所を守ることが、取り過ぎないことが大切だ」と呼び掛けた。

生物を取り巻く環境について、東京湾が埋め立てられ、アサリの数が激減したことなどを例に挙げた。魚の耳石に年輪があることも紹介した。

生徒たちは「東日本大震災による海への影響はあるか」などと熱心に質問。3年の平山まどかさん(も)は「魚の耳石の話は聞いたことがあったが、詳しく教えてもらって勉強になった」と興味深そうだった。